

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23810005

研究課題名（和文）中国二大淡水湖における生活・生業転換の同質性と異質性：1949-2010

研究課題名（英文）The common and different points of lifestyle and subsistence change on two major freshwater lake, China:1949-2010.

研究代表者

卯田 宗平 (UDA SHUHEI)

東京大学・日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・特任講師

研究者番号：40605838

研究成果の概要（和文）：

本研究では、中国の二大淡水湖である江西省鄱陽湖と湖南省洞庭湖を対象に、①まず村落の変容や生活様式の変化に関わる地域間比較を可能にする都市化指標を開発したうえで、②急激な経済発展と生活様式の変容に直面する鄱陽湖と洞庭湖の湖岸の漁村を取りあげ、新たに作成した都市化指標を活用しながら村落の変容に関わる調査を実施した。③また、各漁村における漁業活動の歴史的な変化を記述分析し、漁師たちの生計維持のメカニズムを考察した。

研究成果の概要（英文）：

This study focus on the change of fishing villages of the two major freshwater lake, Poyang lake in Jiangxi province and Dongting lake in Hunan province. First, this study developed the urbanization index to do a comparative study of lifestyle and subsistence change on fishing village, and conducted field survey at some fishing villages using new developed urbanization index. Then, I find on the common and different points about changing process of lifestyle and subsistence at fishing villages from 1949 to 2010. And, this study described historical changes in fishing villages, and analyzes local adaptations of fishermen within the context of social changes in China.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：複合新領域・地域研究

キーワード：環境・人類学・中国・生業転換・近代化

1. 研究開始当初の背景

申請者は、これまで中国最大の淡水湖である江西省鄱陽湖において、そこで生きる鵜飼漁師たちを対象に、生業環境の変化と生計維持の方法に関わる研究を続けてきた。これらの成果により、新中国成立前から集団化の時代を経て現在に至るまでの自然・社会環境の変化と漁師たちの対応の実際を明らかにした。

しかし、申請者が対象としてきた村落は何か所である。そのため、この村落での生活や生業環境の変化が、鄱陽湖全体のなかで、また中国大陸のほかの淡水湖や河川のなかでどのような位置づけにあるのかが分からなかった。村落の変化に関する同質性と異質性を理解することは、都市と農村、農村間の格差が顕在化している中国において、その問題の理解と解決への知見を得るためにも重要

であると考えられる。

また、現在、中国政府は都市と農漁村の格差を是正すべく新農村建設や農村合作医療、家電下郷、改廁などの政策を強力に推し進めている。そして、これら政策により時には急激に農漁村が変化することもある。村落のなかには、名目上は「村」であるが隣接する都市と連結し、都市住民とほぼ同レベルの公共・医療サービスを受けることができるところもある。

今後も、“城郷一体化”に向けて中央や地方政府による一連の政策は続き、各地の農漁村もさまざまな面でその恩恵を受けることになる。こうした変化はまた、公共サービスやインフラの差異をもって都市と農漁村を二元論で捉えようとする見方に修正を強いるかもしれない。

こうしたなか、都市と農漁村の融合という未来像を描くのであれば、双方の異質性を強調するだけでは不十分である。ここで重要なのは、都市と農漁村のどのような部分がどの程度異質なのか、そこに同質的な部分はないのか、異質性や同質性をいかなる尺度で捉えるのかという点を明確にしておくことである。

この理解はまた、どのような段階の農漁村が環境問題を引き起こし、どの段階まで発展すると環境が保全されるのかといった別の問題との関係を検討する際にも利用できる。

2. 研究の目的

そこで本研究は、中国二大淡水湖である江西省鄱陽湖と湖南省洞庭湖の漁村社会を対象に、(1)新中国成立前から集団化の時代、改革開放を経て現在に至るまでの生活・生業転換のプロセスを明らかにし、(2)地域間比較の視点から個々の事例の同質性と異質性を導き出すことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の具体的な方法は以下の4点である。

(1)江西省鄱陽湖と湖南省洞庭湖の村落を対象に、新中国成立以前から現在に至る変化をフィールド調査での定性的記載、定量的分析を通じて明らかにする。

(2)二つの湖を撮影した衛星画像をRS技術により解析することで、とくに改革開放以降の変化とその要因、生活世界への影響を定量的にモニタリングする。

(3)地域間比較の視点から、中国二大淡水湖における生活や生業転換に関する同質性と異質性を明らかにする。ここでは、地域間で違いを生み出す要因を、漁業制度や国家政策、自然環境、地域共同体の組織、生業技術の近代化、地域生態系といった側面と関連付けながら考察する。

(4)中国二大淡水湖に関する現代的な課題

と将来の見通しを導き出す。ここでは、在地の変化と問題点を整理し、問題を引き起こした要因とそのプロセスを明らかにする。

4. 研究成果

本研究の目的は江西省鄱陽湖と湖南省洞庭湖という中国の二大淡水湖における漁村社会の変容を調査し、変容のプロセスの地域的な共通性と相違性を導き出すことであった。

村落の変容を理解することは変容のどの段階でどのような環境問題が発生するのかを検討する際の判断材料にもなり重要である。本研究では村落の変化を客観的に捉えるために都市化指標を開発し、それを用いて漁村社会の生活・生業様式の変化を捉えた。

村落の変化をみてみると、ひとことで“変化”といっても実にさまざまな形態があることがわかった。この研究では、村落の変化を指数が上昇する時期や速さの違いに応じて大きく四つのタイプに分けた。四つのタイプとは、①改革開放以後、2000年度以前に指数が急に上昇したタイプ、②2000年度以降に指数が急に上昇するタイプ、③指数が徐々に上昇するタイプ、④指数にあまり変化がみられないタイプである。

そして、村落の変化の特徴をまとめると以下のことが分かった。

ひとつは、ある村落で指数が急に上昇する場合があるが、その背後には中央あるいは地方政府が主導する各種政策の実施が関係している事例が多いことである。

たとえば、新農村建設によって新たに造られた村落では、衛生や住宅、交通分野の指数が短期間で大きく上昇する。新農村建設とは、農漁村において電気や水道といった基本的なインフラの整備、衛生院や農業施設の建設、農業技術の指導などをおこなうことで農民の生活レベルを向上させ、農村と都市の格差を是正しようとするプロジェクトである。

このプロジェクトが実施された村落では、政府がまず上・下水道や道路、電線を整備し、室内浴槽やトイレのある住宅を建設する。これら一連の整備により各分野の点数が一気に上昇する。中央や地方によって実施された各種政策により村落の指数が短期間で上昇する事例は、三峡ダムや鉄道、空港、都市再開発をめぐる移住後の村落でもみられる。

また、いままさに急激な経済発展がみられる長江中流域の村落でも指数の上昇がみられる。それらの地域では、テレビや冷蔵庫、携帯電話などを購入した世帯が多い。これは、内陸部の経済発展の恩恵を受けた世帯が増えたことや、家電下郷政策などにより農民や漁民が比較的安価な家電を購入できることも影響していると思われる。

家電下郷政策とは、農民や漁民が家電を購

入する際に価格の一定割合を国家が補助するというものである。対象となる家電は、テレビ、冷蔵庫、携帯電話、洗濯機のほか、パソコン、エアコン、湯沸かし器がある。また、バイク下郷や汽車（自動車）下郷も実施されている。それに加え、中央政府主導で農村のトイレを衛生上安全なもの（無公害衛生厕所と呼ばれる）に造りかえ、農村の衛生状態を向上させようとする改廁政策によって「衛生」の指標が上昇する場合もある。

このように、改革開放から現在に至るなかで、とくに交通や衛生、住宅分野の指数が短期間で上昇した村落があるが、その背後には政府の各種政策が裏打ちしていることが多い。

村落の変化に関してもうひとつ重要な点は、村落の指数に上がり止まりがみられるという点である。既往の研究では、指数を四つの分け、対象とする村落の現状を評価したものがあつた。その研究では村落の指数を 38 点以下、39 点から 49 点、50 点から 65 点、66 点以上に分けた上で、38 点以下を「村落変化の初期段階」、66 点以上を「発展した地域」と定義している。

こうした村落変化の定義と本研究の成果をあわせて考えてみると、一部の地域を除いて、指数が 35 点以下（村落変化の初期段階レベル）の村落が、66 点以上（発展した地域レベル）に変化する事例は極めて少ないことがわかる。言い換えれば、現在、中国の多くの村落で都市化指数は上昇していると考えられるが、その指数に上がり止まりがみられるということである。

ここでいう「一部の地域」とは、中央政府主導で地域開発がおこなわれ、10 年足らずで大きく発展した沿岸地区である。ただし、このような急激な変化を経験した事例は少ない。とくに、都市部から遠く離れ、人口が少なく、交通の不便な地域において大型スーパーやホテル、総合病院などが建設されることはほとんどない。そのため、都市から離れた村落の教育や人口、交通、市場、健康、経済に関わる分野の指数は都市部のそれのように高くならない。すなわち、中国各地の村落は経済発展にともない変化し、それに伴って指標も上昇していると考えられるが、村落の変化が一定レベルまで達すると、その後には教育や市場、経済分野で指数が上昇する余地が小さいことが分かる。

本研究では、以上の広域調査に加えて、インテンシブな調査も実施した。平成 23 年度は江西省鄱陽湖の漁村を対象にし、新中国成立前から集団化の時代、改革開放、そして現在に至る生業活動の歴史的変遷を現地調査によって明らかにした。

特に調査では、改革開放から現在に至るまでの漁業組織の変化に注目した。その結果、

調査対象の漁村では、1990 年代において漁業大隊と地方政府が中心となって漁村の漁業発展に積極的に寄与してことが分かった。しかしその後、2000 年代以降になると、道路交通網等の拡充などにより外部の企業が河川や内湖の請負経営権を購入するケースが多くなった。その結果、長年続けられてきた鵜飼漁や刺し網漁などの漁場が大きく減少していることも分かった。

また、鄱陽湖の南部を撮影した衛星画像を解析し、最近 10 年間の鄱陽湖周辺の土地利用の変化、および 4 月-9 月の豊水期と 11 月-3 月の渇水期における鄱陽湖の湖水面積の違いを明らかにした。これまで、中国の内陸部とくに淡水湖とそこを生業の舞台とする漁師たちの生業の変化に関わる研究はほとんど行なわれてこなかった。平成 23 年度の調査により、鄱陽湖における生業活動の時代的な変化が明らかになった。平成 23 年度の研究結果は、中国二大淡水湖のひとつである湖南省洞庭湖との事例比較や、ひいてはアジアの淡水湖との比較研究の基礎となるものである。

平成 24 年度は湖南省洞庭湖の漁村を対象に現地調査を実施したが、調査村の状況は 2000 年以降に急激に変化したことがわかった。村落変容の背景には人民政府の主導による「漁民上岸定住解困プロジェクト（漁民を陸上に定住させ、生活困窮を解決するプロジェクト）」が関係していた。本研究では、地方政府の定住政策によって具体的にどのような分野がいかに変化したのかを調べた。

調査村の人たちの多くは洞庭湖での漁業に専業化している。そのなかで、多くの世帯は船上生活者か、あるいは湖岸に建てられた粗末な建物に住んでいる。

調査村では 1990 年代後半から電線が敷設され、住民たちは電気が利用できるようになった。それに伴って住民のなかにはテレビを購入し、船上に備え付けたものもある。また、2000 年度以降に携帯電話を購入した漁師も多い。これにより、通信の分野の指数がわずかながら上昇した。

その一方、調査村には上下水道はない。そのため、住民たちは炊事や洗濯の際に湖の水をそのまま利用していた。また、自宅や船内には簡易トイレはあるものの、汚水はそのまま湖に流していた。そのため、村では 2007 年まで健康や衛生分野の指数は大変低いものであった。

その後、地方政府は 2008 年から新農村建設の一環として漁民の定住政策を実施した。この政策は 80 畝（1 畝は 6.67a）の宅地を湖岸近くに新たに造成し、そこに住宅を建設するというものである。この政策では、まず 2008 年春から地方政府の主導のもと、基礎工事として上・下水道が整備され、村内外を結

ぶ道路をコンクリート化した。また、村に隣接する場所にゴミ処理場も建設した。その後、室内トイレや浴槽、水道、電気、ガスなどを完備した平屋の住宅が建設された。この結果、村ではまず衛生分野の指数が上昇した。

その後、地方政府は調査村の多くの世帯を低保世帯（政府から生活補助金が支給される世帯）として認定し、低保世帯に対して毎月4トンの生活用水と一定程度の電気を無料で使用できるようにした。その後、村の住民たちは2009年春から政府が整備した住宅に入居した。彼らが入居する際、家電下乡政策を利用してテレビや冷蔵庫、洗濯機などを購入したものも多い。漁民たちが入居の際に各種家電を購入したことで住宅分野の指数も上昇した。

1990年代の村の指数は上記したように住宅や衛生分野の指数が大変低かった。その後、定住政策により指数は30点前後まで上昇した。すなわち、村は定住政策により短期間で指数が3倍以上になったのである。こうした政府主導の定住政策とそれに伴う指数の上昇は、同じく政府主導の政策が実施されている湖南省洞庭湖周辺の村落でも確認できる。

今後の課題は以下のとおりである。

本研究では中国で二大淡水湖と呼ばれる湖南省洞庭湖と江西省鄱陽湖の漁村を対象に、漁村社会の変容や生活・生業様式の変化を明らかにした。一般的に、在地の生活様式の変化はその地で環境問題を引き起こすケースが多い。しかし、村落社会の変化と環境問題の発生との関係性を明らかにすることは難しい。今後は、ゴミの回収システムの未整備といったハード面だけでなく、そこで暮らす人々の環境意識といった側面にも着目しながら村落の変容と各種環境問題の発生プロセスとの関係をさらに調査する予定である。

今後のもうひとつの課題は指標を利用した調査の限界に関わるものである。指標を使った調査では指標に記されている項目でしか村落を評価できない。今まさに経済が発展している中国内陸部の村落では、本研究で取りあげた項目以外にも共同体による資源管理や村落内の規範、民俗慣習など多くの側面に変化がみられた。今後の研究では、より多面的に村落を評価できる方法を開発する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① UDA, Shuhei. "How to Protect Nature? Reconsidering the Relationship Between Man and Nature: The Problem of Non-indigenous Fish Species." *East Asia in the Context of World/Global History* (2012): 359-360. 査読なし

② 卯田宗平 「如何保护大自然——从外来鱼类问题思考自然与人类的关系」『世界史/全球史视野中的东亚』(2012)、69-76。(中国語). 査読なし

③ 卯田宗平 「どのように自然を守るのかー外来魚問題から考える自然と人間の関係ー」『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』(2012)、203-210. 査読なし.

④ UDA, Shuhei. "The Local Adaptation of Cormorant Fishers: A Case Study of Poyang Lake, China." *Japanese Review of Cultural Anthropology*, Tokyo: The Japanese Society of Cultural Anthropology 12 (2011): 101-122. 査読有.

〔学会発表〕(計3件)

① 卯田宗平、「カワウの追従性の獲得-中国の鵜飼漁におけるカワウと漁師との関係から-」、生態人類学会、2013年3月16日、徳島県勝浦郡上勝町。

② UDA, Shuhei. "How to Protect Nature? Reconsidering the Relationship Between Man and Nature: The Problem of Non-indigenous Fish Species." International Conference of East Asia in the Context of World/Global History. December 17th 2012.

③ UDA, Shuhei. "The Behavior of Fishers after Implementation of the Project to Exterminate Nonindigenous Fish in Lake Biwa, Japan". Annual world congress of Biodiversity. April 24th, 2012. Xian International Conference Center, Xian, China

〔その他〕

アウトリーチ活動

① 卯田宗平. 「野生と家畜のリバランス」第159回東南アジアの自然と農業研究会. 2013年2月22日. 京都大学.

② UDA, Shuhei. Biodiversity in Lake Biwa, Japan. The University of Social Sciences and Humanities (USSH), Vietnam. Jan. 10th, 2013.

③ 卯田宗平. 「長江中流域・鄱陽湖の変化と鵜飼漁師」. 東京大学水フォーラム. 2012年4月16日.

④ 卯田宗平. 「中国の鵜飼とは?」. 長良川鵜飼習俗総合調査専門委員会. 2012年2月9日.

⑤ UDA, Shuhei. Local Subsistence and Anthropological Survey. Seminar at Saigon Hotel, HCMC. Vietnam. Sep. 9th, 2011.

⑥ 卯田宗平. 「私の異分野への挑戦」明治大

学アカデミーコモン 309A 教室、2011 年 7 月 11 日.

ホームページ等
個人のページ

<http://homepage3.nifty.com/uda01/index.htm>

所属機関のページ

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/faculty/prof/uda.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東京大学・日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・特任講師
卯田 宗平 (UDA SHUHEI)
研究者番号： 40605838

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし